

令和元年度第1回鹿児島市交通事業経営審議会

日時	令和元年6月10日（月） 15:00～16:15	会場	交通局3階 第2会議室
出席者	古川会長、小山委員（副会長）、上川路委員、江口委員、碓山委員、石田委員、岩崎委員、金子委員（8名）		
市出席者	交通事業管理者、交通局次長、総合企画課長、総務課長、経理課長、電車事業課長、バス事業課長、総合企画課企画係長、企画係職員3名（11名）		
会次第	1 開会 2 新任委員の紹介 3 報告 （1）本年5月17日の高見馬場交差点における市電インシデント（異線進入） （2）自動車運送事業の抜本的見直しに係る取組状況 4 議事 （1）第二次経営健全化計画の実施状況 （2）令和元年度予算の概要 （3）新たな経営計画の策定 5 その他 6 閉会		

会次第 3-(1) 本年5月17日の高見馬場交差点における市電インシデント（異線進入）

発言者等	協議事項・質疑・回答等
	意見等特になし

会次第 3-(2) 自動車運送事業の抜本的見直しに係る取組状況

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	職員の処遇について、具体的に考えているものはあるのか。
事務局	正規職員については、交通局内での配置換や、市長事務部局等との人事交流に向けて協議を行っているところである。嘱託職員については、退職していただかないといけない方も出てくることになる。そういった方に対しては、民間雇用の情報提供等、再就職支援を丁寧に行っていきたい。
委員	民間バス事業者が路線の移譲を受けるに当たって、やはり人員の確保が大変だと聞いている。移譲先の民間バス事業者の人員確保に繋げるため、例えば、現在、管理の受委託を行っている伊敷方面の路線を局直営に引き上げる等の検討はできないか。
事務局	今回の路線移譲は、交通事業全体の収支均衡をめざすため、民間バス事業者が運行する場合と比べ、より経費がかかっている直営路線を中心に移譲の協議を進めてきた。 委託路線については、（民間バス事業者に運行を委託することにより）経費削減の効果が出ていることから、基本的には継続していく。ただ、今回の路線移譲により、局全体の規模が小さくなることにあわせて委託の規模も小さくしていきたいと考えている。
事務局	補足すると、今回の移譲に伴い、現在委託している路線の一部を直営に戻すことも検討している。そこで一定数の人員が確保できるものと考えている。 交通局では、経費節減のため、嘱託職員の採用や管理の受委託を行ってきた。収支バランスが悪くならないよう、全体コストを抑えるため、今後も引き続きこれらを活用していきたい。具体的な積算については、今後、新たな経営計画を作る中で、収支シミュレーションをしてまいりたい。

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	南国交通への移譲が２年に分かれているのは、やはり人員確保の問題なのか。
事務局	人員と車両の確保に期間を要するため、できれば２段階にしてほしいとの相手方の希望に沿うような形で、今回、基本合意したものだ。
委員	「市内乗合バス事業に係る事務連絡会」とはどういった会か。
事務局	平成28年2月の当審議会において、「国・県・市の行政部門や民間バス事業者等が参加し、鹿児島市の交通事業全体の在り方を協議できる場の設置を行政に対して要請すべき」との答申が出されたことをきっかけにつくられた。この事務連絡会の中で、平成28年から29年にかけて協議を行ったところ、「競合路線についての協議は、バス事業者同士が個別に行うこと」との結論が出たことから、これまで民間バス事業者と直接協議を行ってきた。 今回、基本的な協定が結べる段階になったということで、報告を行うものだ。
委員	民間バス事業者からの要望があったか。
事務局	移譲後は民間バスに勤務するよう、嘱託職員への働きかけはできないかとの要望を受けた。局としては、相手方の企業説明会や情報提供等行う形で、協力していきたいと考えている。

会次第 4-(1) 第二次経営健全化計画の実施状況

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	ロケーションシステムが試験運用中とあるが、本格運用に向けて、利用実態を踏まえた検証作業等を行う予定があるのか。
事務局	試験運用開始時から、民間バスとの乗り換えの連携がきちんとなされているか等のチェック作業を行っているが、終わり次第、まもなく本格運用とする予定である。
事務局	市電・市バスロケーションアプリの利用者からの評価が少し低いのだが、使い勝手が良くなるよう、開発元でバージョンアップを予定していることから、本格運用に向けては、そういった動きも注視していきたい。
委員	市バスがダイヤ改正をした直後に、民間バス事業者がその数分前になるよう自社ダイヤを改正している。利用者にとってもバスの発着時間に偏りがあり不便である。
事務局	規制緩和により、従来の市バスの運行エリアに民間バスが参入したことでこのような事態が生じている。そういった競合路線を中心に移譲を行うことで、発着時間の偏りも解消されるのではないかと考えている。

会次第 4-(2) 令和元年度予算の概要

発言者等	協議事項・質疑・回答等
	意見等特になし

会次第 4-(3) 新たな経営計画の策定

発言者等	協議事項・質疑・回答等
	意見等特になし

会次第 5 その他

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	車いす利用者が低床バスを利用する際は、運転手が介添えをしてくださるが、先日、知り合いの車いす利用者が2回連続で乗車時の介添えを断られたとの話を聞いた。その時は身体障害のある友人と一緒にだったので、この人は介添えできないと申し入れをしたのだが、聞き入れてもらえなかったようだ。交通局は方針を変えたりしたのか。
事務局	介添えができる方と勘違いされたのではないかと思われる。今後このような事がないよう、点呼や職員研修を通じて改善を図りたい。
委員	南鹿児島駅前電停と JR 南鹿児島駅を同じホームで直結できないか。
事務局	鹿児島駅前電停と JR 鹿児島駅でも同じような要望を聞くが、線路幅やホームの高さ等の構造的な違いがあることから実現は難しい。